

平成30年度 学校評価実施報告書

学校名 (京都市立 大枝 中学校)

教育目標

「確かな学び・心身の豊かさ・つながる力」

年度末の最終評価

自己評価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し <ul style="list-style-type: none"> 生徒の主体的な学習を促すため、「ペア学習」「グループ学習」を取り入れた授業に取り組んできた。話し合い活動などにもその効果が徐々に出始めている。また、全学年とも学習確認プログラム等において平均を超える結果を残しており、学力面でも一定の成果を残している。 昨年度に作成した大枝中学校区ブロック共通の「学びのガイドライン」をもとに、授業改善の取組を進めている。「めあて」の明示はほぼ出来ているが、「振り返り」にはその方法や内容にまだ課題があり、次年度の研究の取組としたい。 各種アンケートの結果分析から「家庭における学習習慣の定着」が依然として課題であることが分かる。今後も課題の設定や点検方法などの取り組みをさらに工夫し、改善を図りたい。 小中合同夏季研修では、子どもたちにつけたい資質・能力を1つのテーマとして話し合いを持った。その結果、次年度も「つながる力」の育成を主課題として9年間を見通した取組を進めていくことにした。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none"> 学校評価が学校改善につながっていない現状がある。 どこの学校評価を見ても、金太郎飴状態である。ガイドラインや標準化が進み、一定のところで足踏みしている。熱意を持った取組がなくなるなど、弊害が大きくなっているように思われる。 学校評価により、どれだけ正確に自己分析できているかが大切である。全体で揃える段階はすでに過ぎている。学校の特色、独自性を出す取組を進めて行くことが必要になっている。 「子どもたちをどのような良い姿にしていくか」を視点に、どこかに特化した取組をしないと特徴が出ないのではないか。それがないと学校の経営が見えてこない。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	11月6日(火)	学校運営協議会
最終評価	2月27日(水)	学校運営協議会

(1) 「確かな学力」の育成に向けて 『学力向上プラン』

重点目標

すべての教職員が学力向上に向けての課題を共有し、授業改善に取り組むことを目指す。

具体的な取組

- ①全国学力・学習状況調査や学習確認プログラム、生徒アンケート等の調査結果から、経年変化や推移等を分析する。年間4回程度の学力分析研修会を実施し、本校の課題を明確にするとともに解決に向けた授業改善を図る。
- ②年間5回の公開授業研修会を通して、継続的に教員の授業改善に努め、学力向上に効果的な「授業づ

- くり」を行う。(全教員が授業を公開し、教科別・学年別・年代混合等形態を変えて研究協議をする。)
- ③生徒の主体的な学習を促すため、ペアワークや4人班での少人数グループによる授業スタイルを実践し、全校体制での研究を行う。
- ④「未来スタディサポート教室」を、原則全学年で毎週実施。学習につまずきのある生徒に対して継続的に支援をおこない、学習内容の定着と向上を図る。
- ⑤定期テスト前や長期休業期間において、補充的な課外学習の時間(学習相談)を設定する。
- ⑥英語・数学・漢字検定などの検定講座に向けて、土曜学習を実施する。
- ⑦年度当初より全校一斉に「朝読書」に取り組む。
(読書習慣を身に付けさせるとともに、目的に応じて的確に読み取るなどの読解力を向上させる。)
- ⑧各教科で工夫しながら、学校図書館を活用した授業を充実させる。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・学校評価アンケート項目(「教科の授業がよく分かるか」・「家庭学習の時間は」等)
- ・学習確認プログラムや全国学力学習状況調査での経年変化やアンケート内容の分析
- ・運営委員会を中心とする各部会(主に研究部)での報告と分析
- ・生徒の話す、聞く態度の変容を観察

中間評価

各種指標結果

- ・学校評価アンケート項目

「教科の授業がよく分かる」；全教科平均 81.6 P(前年度同時期 81.3 P)

「家庭学習の習慣が身についている」；64.4 P(前年度同時期 66.9 P)

「すすんで学習に取り組んでいる」；77.1 P(前年度同時期 79.2 P)

- ・学習確認プログラムや全国学力・学習状況調査での経年変化やアンケート内容の分析

◎学習確認プログラムの経年変化

3年生は、2年 Pre1 を基準とすると→±0→-2→-2 と推移

2年生は、1年ジョイントを基準とすると→-1→+3→+3 と推移

◎全国学力・学習状況調査の経年変化及びアンケートの分析

国語 A・B、数学 A・B ともに正答率が全国・京都府平均を上回った。

「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」；(1&2) 57.1 P(京都 47.8 P, 全国 52.1 P)

「1日当たりの勉強時間」；(1&2) 57.9 P(京都 34.2 P, 全国 36.4 P)

- ・運営委員会を中心とする各部会(主に研究部)での報告と分析

◎学習面・生活面共に一般的な中学生としてほぼ良好な様子である。

◎家で計画的に勉強をしている生徒は増えているが、宿題の範囲にとどまっており予習や復習までしている生徒はそう多くはない。

◎自分で考え、自分から取り組むこと、自分の考えがうまく伝わるようにいろいろな工夫をすることなど「自主性」と「生徒同士のつながり力」を育てることが課題の一つである。

自己評価	<p>分析(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケートより <p>教科の授業の理解度については、数値はほぼ横ばいではあるが、学年や教科によってばらつきが大きく、一つ一つ丁寧な分析が必要と思われる。また、家庭学習の習慣やすすんで学習に取り組めているかはやや減少している。特に3年生が減少傾向にあり、受験勉強や塾等での学習に追</p>
-------------	--

	<p>われている状況が見られる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・確プロと学調の分析より <p>国語A・B、数学A・B、理科ともに全国平均および京都府平均を上回っており、数学Bでは、全国平均を上回り、活用面で力をつけてきていることがわかることから「少人数グループ」の取組の成果が現れていると考える。ただし、領域毎に分析すると、国語では、言語事項に関する知識が十分でないために正答率が伸び悩んでいることや漢字の定着が不十分なことに課題がある。数学では、いくつかの点で定着が不十分であり、自分で説明を書くことが苦手な傾向が見られた。理科では、生物の解答で、神経系の名称が答えられていなかったことに加え計算問題も誤答があった。</p> <p>確プロも同様で、平均は上回っているものの、領域毎の正答率にばらつきが大きく、得手不得手の差が激しい傾向にあり、単に覚えるのではなく理解して活用する力を伸ばしていく必要があると考える。</p> <p>1日の勉強時間や自学自習については、全国平均、京都府平均を大きく上回っているが、単なる時間数でなく、その内容や計画性など積極的な学習についてのきめ細かな指導が必要であり、今後の学習について重要になると思われる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各部会における分析においても同様の傾向が読み取られており、学校全体で共通理解をして取り組んでいく必要性を感じている。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業を通して自ら学びに向かう力を育み、身に付けさせるための取組として、授業改善の視点から、本校の強みである「少人数グループ」での学習活動をさらに継続する。 <ol style="list-style-type: none"> ①「本時の目当て」「授業の振り返り」の徹底を全教科で実践する。 ②少人数グループでのより積極的な「教え合い」活動の取組と指導方法を研究する。 ③全国学力学習状況調査や学習確認プログラム等の結果分析を継続し、本校生徒の課題を明確にして全教職員が共有する。 ④「未来スタディサポート教室」や学習相談、土曜講座を積極的に実施すると共に、「朝読書」の全校での取組の継続や学校図書館を活用した授業を充実させる。 <p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケート項目（「教科の授業がよく分かるか」・「家庭学習の時間は」等） ・学習確認プログラムでの経年変化や内容の分析 ・運営委員会を中心とする各部会（主に研究部）での報告と分析 ・生徒の話す、聞く態度の変容を観察 <p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「気楽に相談できる先生がいる」の項目で、あまり出来ていないと出来ていないを合わせると、24.6%になっている。学年別に見ると1年生は35%になる。現状はどうなのだろうか。 ⇒気軽にという言葉の程度や相談の内容について1年生は具体的なイメージをつかめていない様に思う。進路とか部活とかこれから人間関係を作っていく中で上がってくるのではないか。 ・ファイナンスパーク学習などキャリア教育の取組について、具体的な内容が分かった。各家庭においても、保護者の姿を見せられるようにしていくことが必要である。

中間評価時に設定した各種指標結果

・学校評価アンケート項目

「教科の授業がよく分かる」；全教科平均 82.7P(前期 81.6 P) +1.1P

「家庭学習の習慣が身についている」；67.3P(前期 64.4 P) +2.9P

「すすんで学習に取り組んでいる」；77.5 P(前期 77.1 P) +0.4 P

・学習確認プログラムや全国学力・学習状況調査での経年変化やアンケート内容の分析

◎学習確認プログラムの経年変化

3年生は、1年Jを基準とすると→+2→+2→+2→±0→±0→+2 と推移

2年生は、1年Jを基準とすると→-1→+3→+3→+2→+3 と推移

1年生は、1年Jを基準とすると→-4→±0 と推移

・運営委員会を中心とする各部会（主に研究部）での報告と分析

◎学習面・生活面共に、ほぼ良好な様子である。

◎家で計画的に勉強をしている生徒は増えているが、宿題の範囲にとどまっており自らの課題の設定までは至っていないと思われる。

◎自分で考え、自分から取り組むこと、自分の考えをうまく伝えることが出来るように工夫をすることなど「自主性」や「つながる力」を育てることが課題である。

自己評価

分析（成果と課題）

・学校評価アンケートより

教科の授業の理解度については、前期に比べ 1.1P の上昇が見られた。ただし、学年や教科によってばらつきがあり、国語、社会、理科、技術で上昇した反面、数学、英語では下降傾向が見られた。学年の後半となり、授業内容も徐々に難しくなっており、つまずきを抱える生徒に対して一つ一つ丁寧な指導が必要と思われる。また、家庭学習の習慣やすすんで学習に取り組めているかは緩やかではあるが上昇傾向にあり、自学自習の習慣化を目指した取組が少しづつ効果を上げていると考える。

・学習確認プログラムの分析より

3年生については、3年間を通して高いレベルで安定を示している。2年生については、徐々に上昇してきており、今後の取組でさらに伸びていく可能性を感じる。1年生は、逆に下降傾向であり、つまずきを持つ生徒を含め丁寧な指導が必要と考える。すべての学年で平均は上回っているものの、領域毎の正答率にばらつきが大きく、得手不得手の差が激しい傾向にあり、単に覚えるのではなく、活用し、発展させる力をつけていく必要があると考える。

・各部会における分析より

確かな学力の定着や家庭学習の習慣化に向けての取組は、徐々にではあるが成果として現れてきている。今後、自ら課題を設定する力や自分の考えや意見を人に伝えたり、人の考えや意見をしっかり聞き取ったりする力「つながる力」をつけていく取組を推進していきたい。

分析を踏まえた取組の改善

・来年度、本校の生徒に対して、育成をめざす資質・能力を「つながる力」と設定した。これは、自分の考えを持ち、他者との対話を通して高め合う力を想定している。そのために、「聞く、考える、伝える」のそれぞれの能力の育成を目指して取組を進めていく。

①これまで取り組んできた「ペア学習」「グループ学習」の取組を継続し、授業を通して自ら学びに向かう力を育むために「授業改善」を進めていく。

②「めあて」「振り返り・まとめ」の徹底を全教科で実践する。特に、「振り返り」については、効

	<p>果的な実践例の研究やワークシートの開発に取り組んでいく。</p> <p>③授業内にとどまらず、放課後の学習会などの機会も活用して、少人数グループでの積極的な「教え合い」活動に向けて取組を進めていく。</p> <p>④全国学力学習状況調査や学習確認プログラム等の結果分析を継続し、本校生徒の課題を明確にして全教職員が共有すると共に、指導と評価の一体化を目指した取組を継続する。</p> <p>⑤「未来スタディサポート教室」や学習相談、土曜講座を積極的に実施すると共に、「朝読書」の全校での取組の継続や学校図書館を活用した授業を充実させる。</p>
	<p>重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>①年3回学力分析研修会を実施した。全国学力・学習状況調査や学習確認プログラム、生徒アンケート等の調査結果を下に、本校生徒の課題を明確にし、授業改善を行っている。 教科や学年によってばらつきもあり、次年度は教科会の活動を一層推進していく必要がある。</p> <p>②年間4回公開授業研修会を実施した。継続的に教員の授業改善に努め、学力向上に効果的な「授業づくり」を行ってきた。次年度も継続して実施していく。</p> <p>③生徒の主体的な学習を促すため、「ペア学習」「グループ学習」を取り入れた授業に取り組んできた。話し合い活動などにもその効果が徐々に出始めている。さらにスタイルや発問・発表の形態などを全校体制で研究・実践していきたい。</p> <p>④「未来スタディサポート教室」を、原則全学年で毎週実施できた。学習につまずきのある生徒に対して継続的な支援を行ってきた。学習内容の定着についても、今後の取組を通して向上を目指したい。</p> <p>⑤定期テスト前や長期休業期間には、補充的な課外学習の時間(学習相談)を実施した。</p> <p>⑥英語・漢字検定の検定講座に向けて、土曜学習を実施する。数学は実施できなかった。</p> <p>⑦年度当初より全校一斉に「朝読書」に取り組んできた。</p> <p>⑧学校図書館を活用した授業の充実について、まだまだ充分に活用できていない。次年度も継続して取組を進めたい。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの結果で、A層とかC層といった説明をしたが、より具体的に説明を求められた。 無記名アンケートであることやグラフから各層の人数の増減等の見方を説明して、全体的な傾向を捕らえていることなどを説明し、全体的に肯定的な回答が多いことなどを理解してもらった。 ・朝読書の取組や図書館の利用について、具体例を上げて説明した。特に多い生徒について、月40冊ほど本を読んでいる生徒もいること、反面本離れが進んでいる傾向もあり、スマホ等の影響もあって、紙ベースでの読書量の減少についても話題となった。

(2) 「豊かな心」の育成に向けて

	<p>重点目標</p> <p>生徒たちが様々な場面で「つながる」ことを促し、互いを尊重し安心して学べる学校づくりを目指す。</p>
	<p>具体的な取組</p> <p>①生徒会活動を中心とした「朝の挨拶運動」や「生活点検活動」など、生徒が主体となる活動を活性化させることで、互いが「つながる」ことの大切さを知り、高め合う集団づくりを推進する。</p> <p>②学校行事や学級での活動を軸に、不調生徒に対する全教職員の共通理解を図り、関係機関や外部支援団体との連携も視野に入れながら、一人一人を徹底的に大切にする取組を継続的に進める。</p> <p>③道徳主任・道徳推進教師を中心として指導内容を系統的に整理し、教科書の選定を見越した教材の選</p>

定や他教科との横断的連携などの研究をさらに進め、教科化に向けて評価方法など本校における道徳教育のスタイルを作り上げる。

④職場体験学習、ボランティア活動、部活動などの体験的な活動を通して、良好な人間関係を築ける力を身に付けさせる。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・学校評価アンケート項目（「いじめを許さない仲間づくり」・「きまりを守っているか」等）
- ・学習確認プログラムや全国学力学習状況調査でのアンケート結果の分析
- ・運営委員会を中心とする各部会（主に生徒指導部）での報告と分析
- ・生徒の学校生活における態度や言動を観察

中間評価

各種指標結果

・学校評価アンケート項目

「いじめを許さない仲間づくりができている」94.8P（前年度同時期90.5P）

「自分を大切にしている」；87.1P（前年度同時期87.9P）

「人を大切にしている」；96.7P（前年度同時期95.9P）

「仲間の良いところを見つけようとしている」；89.3P（前年度同時期89.4P）

「学校の約束事や決まりを守っている」95.2P（前年度同時期93.9P）

・全国学力学習状況調査でのアンケート結果

「自分にはよいところがあると思いますか」；(1&2)75.2P（京都77.0P, 全国78.8P）+3.5P

「将来の夢や目標を持っていますか」；(1&2)72.9P（京都70.6P, 全国72.4P）

「学校の規則を守っていますか」；(1&2)76.2P（京都74.9P, 全国75.1P）

「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」

；(1&2)97P（京都95.1P, 全国95.5P）

・運営委員会を中心とする各部会（主に生徒指導部）での報告と分析

学校祭（合唱コンクールや文化祭、体育祭）後の生徒アンケートや教職員の総括の分析から、生徒会活動を中心とした、生徒が主体となる活動の活性化に手応えを感じているものが多く見られた。

自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none">・学校評価アンケートより 指標とした5つの項目について、いずれの項目もほぼ横ばいか微増傾向を示している中、「いじめを許さない仲間づくりができている」が94.8Pと4P以上の増加となった。保護者アンケートでも同項目は93.7Pの高い結果が出ている。これまでの指導が活きてていると感じる反面、頭では分かっていても、行動が伴わないといったトラブルもなくなっているわけではないので、今後も地道な指導の継続が必要と考える。また、「自分を大切にしている」「人を大切にしている」の指標も高く大枝三訓の一つ『自他共生』の実現に向けて着実に進んでいると考える。「学校の約束事や決まりを守っている」95.2Pをみても生徒の学校生活が安定していることを示している。・全国学力学習状況調査でのアンケートより 「学校の規則を守っていますか」や「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の回答は全国平均を上回る高い結果が出ている。また、「自分にはよいところがあると思いますか」の回答は、まだ全国平均よりは低いが昨年に比べると3.5Pも上昇している。しかしながら、自己肯定感の向上や自尊意識の育成など課題は多い。「将来の夢や目標を持っていま
------	--

	<p>すか」についても 1 と 2 の回答を合わせると全国平均を超えるが、1だけの回答率を見ると 42.1 P と全国や京都府平均には及ばない。自信を持って「当てはまる」と答えるにはまだまだ意識付けが必要と考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営委員会と中心とする各部会（主に生徒指導部）より <p>学校祭（合唱祭・文化祭・体育祭）後の生徒アンケートや教職員の総括の分析から、生徒会活動を中心とした、生徒が主体となる活動の活性化に手応えを感じているものが多く見られた。学校行事や学級での活動を軸に、不調生徒に対する継続的な支援をおこなう取組も一部では進めることができている。</p>
学校関係者評価	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自他を大切にする態度を育成するための取組として <ol style="list-style-type: none"> ①自己有用感を高めるための取組として、表彰活動（掲示板やHP等）を継続する。 ②週に1回全校清掃を実施し、「協働感謝」の精神を高める。 ③長年取り組んできた西総合支援学校との交流を継続し、さらに充実させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・「公共の精神」に基づく態度を育成するための視点と取組 <ol style="list-style-type: none"> ④後期も「全校一斉クリーンデイ」を実施し、公共の精神を涵養する。 ⑤次年度に向けソーシャルスキルを育む「大枝つながりプログラム」の見直しをおこなう。 <p>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケート項目（「いじめを許さない仲間づくり」・「きまりを守っているか」等） ・学習確認プログラムや全国学力学習状況調査でのアンケート結果の分析 ・運営委員会を中心とする各部会（主に生徒指導部）での報告と分析 ・生徒の学校生活における態度や言動を観察 <p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いじめを許さない仲間づくりができている」の回答を学年別に見ると、2・3年生が 96% を超えているのに対し、1年生は 91% 台弱とどまっている理由は何か。 ⇒いじめの定義づけとして「相手が嫌だと感じたら、それはいじめに繋がる」という指導を1年生から徹底するようにしている。1年生では、いじめについてかなり広い括りをしている生徒が多いと思われる。指導の過程としてそれは好ましいと考える。2・3年生になれば、少しづつ状況判断が出来るようになってくるので、仲間づくりにウェートがかかった判断をしているのではないか。 ・クラマネといじめのアンケートの違い（使い分け）はどのようにしているのか。学校評価のアンケートでは、SNSに関する質問はしていないのか。 ⇒無記名と記名の違いがある。いじめに関しては、より具体的に状況把握が必要なため、記名式にしている。SNSに関する質問もその中でしている。

最終評価

	<p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケート項目 <p>「いじめを許さない仲間づくりができている」 95.5P（前期 94.8P） +0.7P 「自分を大切にしている」； 88.4P（前期 87.1P） +1.3P 「人を大切にしている」； 97.7P（前期 96.7P） +1.0P 「仲間の良いところを見つけようとしている」； 89.0P（前期 89.3P） -0.3P</p>
--	---

「学校の約束事や決まりを守っている」93.0P（前期 95.2P） -2.2P

・学習確認プログラムのアンケート結果

「学校の規則を守っていますか」；(1&2)97.6P(前年同時期 98.5P)

「近所の人に会ったときは、あいさつをしていますか」；(1&2)91.1P(前年同時期 92.1P)

「清掃活動や係活動をきちんとしていますか」；(1&2)97.6P(前年同時期 94.9P)

「人の気持ちがわかる人間になりたいと思いますか」；(1&2)94.0P(前年同時期 95.1P)

・運営委員会を中心とする各部会（主に生徒指導部）での報告と分析

生徒会本部役員が改選され、後期に入った生徒会の各委員会の活動については、全体的に主だったものがないせいか、低調な感じがする。また、取組も年間で計画されたものでないため、やっつけ仕事的な感が否めない。生徒が主体となる活動を活性化していくためにも、年間を通した取組を計画し、それに向けて取り組んでいくように本部を中心とした取組の見直しを進めたい。

自己評価

分析（成果と課題）

・学校評価アンケートより

指標とした5つの項目のうち3項目は微増傾向を示している。「いじめを許さない仲間づくりができる」は0.7P上昇して95.5Pとなった。一方、保護者アンケートでは、同項目は90.4Pと前期より3.3P減少している。生徒は「いじめは許さない」という意識をしっかりと持っているが、具体的な場面では行動が伴わないといった現状があるという実態、それは保護者の視点から見ると指導の不十分さとしてと写っているのだと思われる。いじめはあるという前提で現状を捉え、今後も地道な指導を継続していきたい。

「学校の約束事や決まりを守っている」の項目が2.2P減少したことから、学年後半になって学校生活全般に緩みが生じていることがうかがえる。特に3年生が-3.1Pと大きく減少したことは、進路を控えた時期での精神的な不安定さが影響しているのではないだろうか。ただし、全体的には93.0Pと高い水準は保っており、生徒の学校生活が安定していると捉えている。

・学習確認プログラムのアンケート結果より

4項目中3項目で減少傾向が見られた。「近所の人に会ったときは、あいさつをしていますか」と「人の気持ちがわかる人間になりたいと思いますか」は微減ではあるが、本校教育目標実現の根幹に関わるポイントであることから、さらに取組を進めていきたい。一方、「清掃活動や係活動をきちんとしていますか」は2.7P大きく上昇した。言われたことはきちんとできるという本校の生徒の特質をよく表しているが、今後言われなくてもできる、自分で考えて行動できるなど発展的な取組が出来るように指導していきたい。

・運営委員会を中心とする各部会（主に生徒指導部）より

生徒会本部および各委員会の活動について、年間を見通した活動計画を作成すること。その予定に沿った取組を計画的に、かつ生徒の自主性が育成できるように教職員が見通しを持って共通理解の下、取組を進めていく体制づくりが課題である。

分析を踏まえた取組の改善

・「豊かな人間性」の育成を図るための取組として

- ①「しなやかな道徳教育」の実践を目指し、研究指定の機会を充分に活用して全校体制で取り組む。
- ②社会人としてのルールやマナーの習得と規範意識の育成を目指して指導する。

・自他を大切にする態度を育成するための取組として

- ③自己有用感を高めるための取組として、表彰活動（掲示板やHP等）を継続する。

- ④週の1回全校清掃や「全校一斉クリーンディ」を実施し、支え合い高め合う集団づくりを進める。

	<p>⑤長年取り組んできた西総合支援学校との交流を継続し、さらに充実させる。</p>
	<p>重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>①生徒会活動を中心とした「朝の挨拶運動」や「生活点検活動」など、生徒が主体となる活動が不十分であった。生徒会本部を中心とした計画的な取組を通して、互いが「つながる」ことの大切さを知り、高め合う集団づくりを推進する。</p> <p>②不調生徒の増加が特に懸念される問題である。学校行事や学級での活動などあらゆる機会を捉えて、全教職員の共通理解のもと、関係機関や外部支援団体との連携も視野に入れながら、一人一人を徹底的に大切にする取組を継続的に進める。</p> <p>③道徳主任・道徳推進教師を中心として指導内容を系統的に整理し、教科書の活用や独自教材の開発など他教科との横断的連携などの研究をさらにすすめる。また、評価方法など本校における道徳教育のスタイルを作り上げる。</p> <p>④職場体験学習、ボランティア活動、部活動などの体験的な活動を通して、良好な人間関係を築ける力を身に付けさせる。</p>

学校
関
係
者
評
価

学校関係者による意見・支援策

- ・「人を大切にしている」という質問は漠然としているのではないかというご指摘をいただいた。
⇒進んで、楽しい、仲が良いなど漠然とした質問が多いのもアンケートの特徴である。それぞれの状態をどのように捉えるのか、個人差が出てくるのは仕方がない。その上で、全体の傾向が捉えられれば良いのではないか。また、「自分を大切にしている」のと同じ様な思いを持って他人に接しているという風に捉えても良いのかも知れない。
- ・「学校から出されている配布プリントは手元に届いている」の項目について、肯定的な回答が生徒 78.2P に対して保護者 67.2P と 10P 以上の差が出ているのはなぜだろうか。
⇒配布プリントについての認識に親子で差があるのだと思う。机や鞄の中でグチャグチャになっているケースもあると思うが、渡しても親も見ていないことも多いのではないか。箱などを用意してそこへ入れるような習慣をつけるなどの工夫も必要と思われる。

(3) 「健やかな体」の育成に向けて

	<p>重点目標</p> <p>基本的な生活習慣の確立、スポーツや部活動を通して社会規範や健康な心身を培う。</p>
	<p>具体的な取組</p> <p>①校外の様々な人的資源や機会を有効に活用し、防犯教室(薬物乱用教室を含む)等の啓発事業をさらに推進することで、自己判断力を高め、保健指導や健康教育指導を充実させる。</p> <p>②運動部活動ガイドラインを遵守しつつ、体力の増進と健康維持を図るために部活動を活性化する。</p> <p>③朝の健康観察や自己チェックシートを活用し、基本的生活習慣に関する自己健康管理能力を養う。</p> <p>④登下校時(自転車登校等)や日常の生活実態を十分に把握し、安全指導の徹底を図る。</p> <p>⑤保健だよりや食教育だよりなどを活用して、食教育指導の充実を図る。</p>
	<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケート項目(「規則正しい生活ができているか」・「時間を大切にしているか」等) ・各種体力調査結果の分析(「全国体力・運動能力・運動習慣等調査」、「新体力テスト」等) ・生徒の学校生活における状況を保健室と連携して観察

中間評価

各種指標結果

・学校評価アンケート項目から

「規則正しい生活ができている」74.0P（前年同時期77.9P）

「ベル着を守るなど時間を大切にしている」92.8P（前年同時期92P）

・生徒の学校生活における状況を保健室と連携して観察

本校では、大枝小学区の生徒のみ自転車通学を認めているが、これまでも自転車乗車時のケガや事故、地域住民の方々への迷惑行為がみられてきた。急な坂道が多い地理的条件もあり、これらを改善するために、年度当初の自転車運転学習会を行ったり、外部講師を招聘して研修会を実施したりしている。定期的な下校時のパトロールや指導、地域の方々からの聞き取りをおこなうことで効果を確認をしているが、なかなか改善されることなく、課題が残っていると思われる。

自己評価

分析（成果と課題）

・学校評価アンケートより

「規則正しい生活ができている」が74.0Pで、昨年より4P近く減少した。一昨年からは7Pの減少である。生徒たちは何を持って規則正しい生活と考えているのかも検討の余地はあるのだが、概ね「早寝・早起き・朝ご飯」といわれる習慣が定着していないと考える。最近の傾向として学年が上がるに連れて出来ている割合が減少していたのだが、今年の1年生は、「よくできている」の回答が全学年で一番低くなっているのも特徴である。「ベル着を守るなど時間を大切にしている」92.8Pと微増しているので、決して時間にルーズなわけではない。全項目とも関連するのであるが、ゲームやラインなど無駄に時間を費やしていることも考えられる。

・保健室と連携して観察した結果

本校では、大枝小学区の生徒に対して自転車通学を認めているが、例年、自転車運転時のケガや事故、さらには地域住民の方々への迷惑行為がみられる。急な坂道が多い地理的条件もあり、年度当初には自転車運転学習会や外部から講師をお招きしての研修会を実施している。しかし、地域からの苦情もまだ多く課題があると思われる。

さらに、今年度はけがが多くなっている。ねんざや骨折などの重大なけがが、体育の授業中や部活動、塾の行き帰りなど校内外にかかわらず多発傾向にある。生徒の成長過程で、当然身についていくはずのバランス感覚や危険予知力の低下が関わっているのではないかと考えている。

分析を踏まえた取組の改善

- ①朝の健康観察や自己チェックシートをさらに活用し、基本的生活習慣に関する自己健康管理能力を養う。
- ②登下校時（自転車登校等）や日常の生活実態を地域の方々のご支援をいただき十分に把握し、安全指導の徹底を図る。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- ・学校評価アンケート項目（「規則正しい生活ができているか」・「時間を大切にしているか」等）
- ・各種体力調査結果の分析（「全国体力・運動能力・運動習慣等調査」、「新体力テスト」等）
- ・生徒の学校生活における状況を保健室と連携して観察

学校関係者評

学校関係者による意見・支援策

- ・市の条例制定にあわせて、自転車通学者の許可条件に「任意保険」加入を入れることにしたことに対して評価するとの意見があった。
- ・最近、けがが非常に多いとの報告について、その理由や対処についての質問があった。

価 値	⇒骨が弱い。バランスが悪い。危険予知能力が低い。など様々な要因が挙げられるが、小さい頃からの経験不足が大きいのではないか。外部の人材活用などで家庭科の実習に入っている方から、雑巾が絞れない生徒が非常に多いとの指摘を受けた。家で雑巾やタオルを絞る経験をしていないと思われる。
--------	--

最終評価

中間評価時に設定した各種指標結果

・学校評価アンケート項目から

「規則正しい生活ができている」 76.9P (前期 74.0P)

「時間通りに登校でき、ベル着を守るなど時間を大切にしている」 90.1P (前期 92.8P)

・「全国体力・運動能力・運動習慣等調査」(全国平均との比較)より

男子; 身長 159.2cm(-0.5), 体重 45.5kg(-3.2), 軽度肥満 2.7%(-1.2), 普通 93.2%(+3.7), やせ 4.1%(+1.6)

女子; 身長 156.4cm(+1.5), 体重 45.3kg(-0.6), 軽度肥満 1.6%(-2.1), 普通 96.8%(+7.1), やせ 1.6%(-2.3)

「運動が好き」; (1&2)男子 82.5%(88.8%), 女子 73.6%(79.7%)

「体力・運動能力に自信がある」; (1&2)男子 50.6%(52.3%), 女子 26.4%(26.2%)

「朝食を食べる」; (1 毎日)男子 80.2%(81.4%), 女子 74.6%(78.2%)

「夕食を食べる」; (1&2 毎日)男子 95.2%(97.1%), 女子 97.2%(94.2%)

「1日の睡眠時間」; (6 時間未満)男子 10.7%(9.0%), 女子 5.6%(10.1%)

・生徒の学校生活における状況を保健室と連携して観察

自転車による事故は通学手段にかかわらず、増加している。塾の行き帰りや、買い物途中など放課後の時間帯にも頻繁に発生している。

朝から体調不良を訴えて、保健室に来室する生徒も多く、固定化する傾向がある。また、体育の授業や部活動の怪我も多く、本来なら簡単に避けられるようなものも重症化する傾向がある。

自己評価	分析 (成果と課題)
	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケートより <p>「規則正しい生活ができている」が 76.9P と前期より 2.9P 上昇した。何を持って規則正しい生活と考えているのか疑問もあるが、「早寝・早起き・朝ご飯」のうち「早寝・早起き」についての達成率が低いと思われる。また、「時間通りに登校でき、ベル着を守るなど時間を大切にしている」の項目が 90.1P で前期より 2.7P 減少した。これも、ベル着などのルールよりも登校時間の遅さが原因と思われる。ここにも「早寝・早起き」に課題あると考える。</p> 「全国体力・運動能力・運動習慣等調査」より全国平均と比較して <p>男子は、身長はほぼ平均、体重は 3kg 程軽い。肥満傾向が少なく、やせ傾向が多い。</p> <p>女子は、身長が少し高めで、体重はやや軽い。肥満、やせ共に少なく、97%が普通である。</p> <p>「運動が好き」「体力・運動能力に自信がある」共に男子は全国平均を下回り、女子も「好き」の割合はかなりしたである。</p> <p>「朝食を食べる」は男女共に全国平均を下回り、「夕食を食べる」は男子は低く、女子は高い傾向が見て取れる。また、「1日の睡眠時間」が 6 時間未満の生徒は、男子で 10%を超える反面、女子は 6%以下と男女の差がはっきりと出ている。</p> 保健室と連携して観察した結果 <p>例年、自転車通学を認めている生徒対象に自転車安全教室を開いてきたが、全校的な取組にしていきたい。さらに、今年度はけがが多くなっている。ねんざや骨折などの重大なけがが、体育</p>

	<p>の授業中や部活動、塾の行き帰りなど校内外にかかわらず多発傾向にある。生徒の成長過程で、当然身についていくはずのバランス感覚や危険予知力の低下が関わっているのではないかと考えている。</p> <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>①朝の健康観察や自己チェックシートをさらに活用し、基本的生活習慣に関する自己健康管理能力を養う。特に「早寝・早起き・朝ご飯」の取組を全校体制で進めていく。</p> <p>②登下校時（自転車登校等）や日常の生活での交通安全指導を徹底し、自転車安全教室も全校生徒を対象としたものにしていく。</p> <p>重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>①今年度は、ケータイ教室、非行防止教室、いのちの授業で、外部の講師を招いた取組を行った。次年度も校外の人材活用や機会を有効に利用し、啓発事業を推進していきたい。なお、3年生で薬物乱用教室を新たに実施する予定にしている。これらの取組を通して自己判断力を高め、危険察知能力を身につけさせたい。</p> <p>②運動部活動ガイドラインを遵守し、体力の増進と健康維持を図るために部活動を活性化する。</p> <p>③朝の健康観察や自己チェックシートを活用し、基本的生活習慣を自分の力で身に付けさせる。</p> <p>④登下校時（自転車登校等）や日常の生活実態を十分に把握し、安全指導の徹底を図る。</p> <p>⑤保健だよりや食教育だよりなどを活用して、食教育指導の充実を図る</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>食教育の内容と教職員アンケートで低い評価が出ている点についての質問があった。</p> <p>⇒京都市が配付している資料を使って、アンケートの分析から不十分であると考えられる「早寝・早起き・朝ご飯」の指導を行っている。家庭科の授業では外部の方を講師に迎えて日本食や出汁についての実習や栄養についての学習を取り入れている。学年や学級の教師にとって、食教育を行っているという実感が少ないことが、アンケートの結果に繋がっているように思われる。</p>

（4）学校独自の取組

	<p>重点目標</p> <p>大枝ブロックにおける小中一貫教育を軸とした 9年間を通しての「自らすすんで学び、自分も友達も大切にする子ども」の育成</p>
	<p>具体的な取組</p> <p>①小中「学びのガイドライン」の徹底と継続的な見直し</p> <p>②小中連携事業の拡充（部活見学会の実施・入学者説明会での生徒活動など）。</p> <p>③夏季合同研修会の内容を充実。</p> <p>④小中連携事業の推進→小中合同ポスターセッションを実施する。</p> <p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大枝ブロック各校における学校評価教職員アンケート（「小中連携がすすんでいるか」等） ・学習確認プログラムでのアンケート結果の分析 ・大枝ブロック合同部会（校長会・教務部会・研究部会・生徒指導部会）での報告と分析

中間評価

	<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大枝ブロック夏季合同研修会での教職員アンケートの分析
--	--

- 小・中9年間を通して身につけさせたい力を話し合うことができ、大変良い機会であった。
- 小学校の実態や小学校のやり方など普段は見られないことを聞くことができて良かった。
- 9年間を見据えることが大事だと再確認できた。
- パネルディスカッションで、3校で共通する課題がわかり、また、大枝小と桂坂小のちょっとした違いなどが出て、新しい発見ができた。お金の使い方（遊び方）が大枝小、桂坂小で違いがあったり、家庭での違いがあったりと、学校教育で指導できにくく部分もあり、難しさも感じた。
- グループでは、コミュニケーション能力に焦点を当て、何ができれば身についたことになるのか等考えた。大変勉強になった。
- 小学校の先生方と協議するうちに、大枝ブロックの子どもたちの課題と自分自身の課題が見えてきた。また、改めて自分の授業を振り返り、見直す機会にもなった。説明中心の「分かりやすい」授業ではなく、子どもたち自身が主体的に学ぶ授業をする重要性を再認識した。
- ・大枝ブロック合同部会（校長会・教務部会・研究部会・生徒指導部会）での報告より
- 初めての研修の手法だったが、大変よかったです。ポスターセッションも、まとめるのにもっと時間が必要だったが、一定の成果があったと思う。
- ポスターセッションは、時間がもっとあればよかったです。グループ協議後の交流の仕方について改善できると思う。
- 小学校の先生方と交流する機会は貴重だと感じた。

自己評価

分析（成果と課題）

- ・大枝ブロック夏季合同研修会での教職員アンケートの分析より

これまでの手法を変えて、パネルディスカッションとポスターセッションを取り入れたが、3校とも肯定的な意見が多かった。特に、パネルディスカッションではパネラーだけでなくフロアからの活発な意見がたくさん出てとても有意義であったとの感想が多かった。今後、カリキュラムマネージメントを踏まえた、9年間で付けたい資質や能力の観点から、小中で継続できる学校教育目標につなげていきたい。
- ・大枝ブロック合同部会（校長会・教務部会・研究部会・生徒指導部会）での分析より

詳細については、今後、研究主任会や教務主任会で分析したものを元に、校長会で『9年間で子どもたちに付けたい資質や能力』として具現化したい。それらを学校教育目標に共通するものとして取り込んでいければ良いと考えている。

昨年度作成した「学びのガイドライン」の点検や見直しを通して、大枝ブロックにおける「学びの継続性」を推進するための枠組み（システムづくり）が重要であることを再確認することもできた。

分析を踏まえた取組の改善

- ①後期には、「合同ポスターセッション」を実施する。これまでの研究成果をもとに、探究的な学習の実践を継続する。
- ②大枝ブロック3校で、道徳等を中心とした相互の授業参観をおこない、9年間を見通した学びの連続性をさらに進めていく。
- ③小中の管理職、教務主任、研究主任、生徒指導担当者が中心となり、共通の課題に対する改善の方向性を明確にするために、定期的な情報交換の場を設ける。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- ・大枝ブロック各校における学校評価教職員アンケート（「小中連携がすすんでいるか」等）
- ・学習確認プログラムでのアンケート結果の分析

	<ul style="list-style-type: none"> ・大枝ブロック合同部会（校長会・教務部会・研究部会・生徒指導部会）での報告と分析
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最近の大枝中生をみると「素直でおとなしい」と感じることが多い。「よい子過ぎる」あるいは。「幼い」と言ってもよいかもしれない。授業中（染色実習や保育体験）も言われたことはきちんと出来るし、大きな声を出さなければならない場面もなく、非常にやりやすく感じている。しかし、自己主張をする場面はあまりなく、静かに指示を待っているように思えるので、積極性や主体性が付いていくことを期待する。 ・学校運営委員会としても、小学校の運営委員会と連携をとりながら、小中一貫で9年間のスパンで子どもを見守ることが大切である。大枝ブロックの学校運営委員会として、何ができるのか、そのあり方を考えていきたい。

最終評価

	<p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大枝ブロック各校における学校評価教職員アンケート（「小中連携がすすんでいるか」等） 小中の連携については、教職員は概ね良好な評価をしている。昨年度より取り組んでいる「学びのガイドライン」についても教職員にアンケートを実施して、実践の程度を確認した。意識付けもできてきたが、今後の取組について具体的なものが出てこないのが課題である。 ・大枝ブロック合同部会（校長会・教務部会・研究部会・生徒指導部会）での報告と分析 小中一貫の取組として、今年もポスターセッション、体験授業、部活動見学などを行った。それぞれに意義のある取組であると思うが、子どもたちの安全面やカリキュラムとしての位置付けなど新たに問題が出てきているのも事実である。ポスターセッションは取り組んで3年が経つので、形態や内容など再度検討する必要が出てきと思う。
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な取組を通して、一定の成果が上がっていると感じている教職員が多い。小中学校でお互いを知ったり、交流を深めたりといった初期の目標は概ね達成できていると考えられる。 ・ポスターセッション、体験授業、部活動見学などの取組において、本校と大枝小との地理的関係が課題になっている。約1.7kmの距離と100mの高低差、小学校前の細い道路など安全面でも課題が多い。往復に要する時間が、実際に取り組んでいる時間より長いなど効率にも大きな問題が出てきている。 ・「学びのガイドライン」については、9年間を見通して小中の教師が作ったものである。「めあて」と「振り返り」の明示やユニバーサルデザインも考慮した学習の基盤となるものができたと考えている。今後、ガイドラインについて、全教職員が共通理解し、再確認することで重要となると思う。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・より効果的で効率の良い取組について、研究が必要である。ポスターセッションも校内での発表の形態としては有効なものであるが、小中学生が交流する場と発表としては、質問や意見が出しにくかったり、非常に煩雑になったりとその実効性に疑問が出てきた。お互いの教職員が話し合う場を持つことでよりよい形態に変えていく時期に来ていると考える。 ・体験授業や部活動見学、生徒会交流など移動する回数を少なくすることで、安全面や効率の面でも改善ができると考える。取組を全体化し、俯瞰的に見ることが必要になってくる。 ・教科化された道徳について、来年度「しなやかな道徳」と研究指定を小中ブロックで受けること

	<p>が決まっている。道徳主任会（道徳推進教師）を中心として、研究主任会、教務主任会、校長会、それぞれが相互に連携をとりながら、研究を推進していくことが必要になってくる。</p> <p>重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>①小中「学びのガイドライン」の徹底と継続的な見直しについては、概ね出来ているが、次年度も再度の検証が必要である。特に、ユニバーサルデザインについては、一人一人の生徒を大切にするという観点からもより実効性のあるものとしていきたい。</p> <p>②小中連携事業の拡充については、今年度実施したものにとらわれることなく、より安全で効率的な取組となるように、その意義や効果について十分検討してから取り組めるようにしたい。</p> <p>③夏季合同研修会の内容について、今年度は『カリキュラムマネージメント』をテーマに小中9年間を見通して「子どもにつけたい資質や能力」について研修を行い、一定の方向性をつけることができた。次年度はテーマを『道徳』に設定し、評価についての研究を中心に小学校と中学校で一貫性のあるものにする研修を行いたい。</p> <p>④今年度は小中連携事業を推進することを狙いに小中合同ポスターセッションを実施することができた。次年度は、より有効な発表の形態も含めて再検討していきたい。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大枝中、大枝小、桂坂小で小中一貫や小々連携をさらに進めていって欲しい。将来を見据えて、より活発な地域、社会を作り上げるような児童、生徒に育って欲しい。そのためにどのような協力が出来るのか、学校運営協議会のあり方も含めて今後検討していきたい。 ・小中3つの学校運営協議会も今後どのように連携がとれるのか一緒に考えていきたい。